

# 海越しの雄大な立山連峰を望みながら、至福のひとときを ～道の駅「雨晴」について～

富山県高岡市 都市創造部 道路建設課

## はじめに（高岡市の概要）

高岡市は、本州のほぼ中央で日本海に面する富山県の北西部に位置し、平成 17 年 11 月 1 日に旧高岡市、旧福岡町が合併し誕生しました。

古くは天平の時代から伏木の地に越中国府が置かれ、この地方の政治経済の中心地として栄えました。天平 18 年（746）には、万葉集の代表的歌人である大伴家持が越中の国守として赴任し、在任 5 年の間に風光明媚な雨晴海岸や二上山などを愛でて詠んだ 220 首余りの秀歌を万葉集に残しています。

市内には古代以来の神社（氣多神社、射水神社）、中・近世以来の大寺院（国泰寺、勝興寺、瑞龍寺）が残っています。なかでも、瑞龍寺は加賀藩二代藩主で高岡の開祖・前田利長公の菩提寺で、壮大な伽藍配置様式の禅宗寺院であり、平成 9 年（1997）、山門、仏殿、法堂が国宝の指定を受けました。

また、重要伝統的建造物群保存地区に指定された「山町筋」には、明治期に建てられた土蔵造商家や民家が立ち並び、同じく地区指定された高岡鋳物の発祥地である「金屋町」には、現在も千本格子と呼ばれる「さまのこ」が特徴的な町屋が残り、高岡らしい情緒ある風情を醸し出しています。

高岡銅器や高岡漆器は、高岡を代表とする伝統産業であり、藩政期以来の長い歴史の中で受け継がれてきた「ものづくりのわざと心」が今もなお脈々と息づいています。先人がつくりあげ洗練させてきた「ものづくりの技」を継承しつつ、現在では、デザイン性の高い新しいクラフト商品が次々と発表され、注目を集めています。



高岡市の位置



国宝「瑞龍寺」



金屋町楽市の賑わい

## 施設立地箇所（太田地区）の概要

道の駅「雨晴」は、本市北部の太田地区に位置し、石川県羽咋市と富山県富山市を結ぶ一般国道415号が海岸線に沿って通過する区間に立地します。

太田地区には、雨晴海岸をはじめとした美しい自然、そして古代から近世に至る様々な歴史と文化資産が数多く遺っています。

雨晴海岸は、万葉集に「洪谿（しぶたに）」と詠まれた岩礁多く白砂青松の景勝の地で、富山湾越しに3,000メートル級の立山連峰を望むことができます。大伴家持も、しばしば当地を訪れ、いくつもの歌を詠んでいます。

この景観に代表される富山湾は、平成26年（2014）に「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟し、世界に向けてその魅力を発信しています。

また、当地区には、鎌倉幕府の追捕を受けた源義経主従が奥州へ落ち延びる途中に当地区を通った時、にわか雨が降ったので、岩陰（のちの義経岩）で雨が晴れるのを待ったという“いい伝え”があり、「雨晴」の地名の由来となっています。

さらに、雨晴海岸からの景色は、松尾芭蕉が『おくのほそ道』に詠んだ由緒地でもあり、平成26年には「おくのほそ道の風景地」として国名勝に指定されています。



道の駅「雨晴」の位置



雨晴海岸から望む立山連峰

わせの香かや 分わけ入い右みぎは 有あ磯いそ海うみ 松尾芭蕉  
（北陸の豊かさを感じさせる早稲の香りに包まれながら、加賀の国へ向かう右手には、歌枕で有名な有磯海が広がっている。）

馬うま並なめて いざうち行ゆかな 洪谿しぶたにの  
清きよき磯いそ廻まりに 寄よする彼見かみに 大伴家持  
（馬を並べてさあ出かけようじゃないか。洪谷の清らかな磯に打ち寄せているその波を見るために。）



## 周辺の道の駅の状況

本市には、市域を東西に横断する幹線道路である国道8号と、南北に縦断する地域高規格道路である能越自動車道の高岡ICとの接続部に、道の駅「万葉の里 高岡」が平成18年（2006）に供用しており、立地環境の良さと富山県内の土産物の品揃えの豊富さから、多くの方々に利用いただいています。

また、隣接する氷見市及び射水市には、それぞれ地元特産の海産物や地元漁港で水揚げされた新鮮な魚介類を豊富に扱う、道の駅「氷見」と道の駅「カモンパーク新湊」が立地し、多くの観光客で賑わっています。



周辺の道の駅の状況

今回新たに設置する道の駅「雨晴」は、これら3駅から概ね10kmの距離に位置し、雨晴海岸を目的に多くの観光客等が訪れる地区でありながら、周辺の幹線道路沿いには休憩施設が僅かで、休憩施設の空白地となっています。そのため、道の駅を設置することにより、道路利用者のための休憩機能を確保するとともに、個性的で魅力的なそれぞれの駅と連携し、ネットワーク化することによって富山県の魅力をさらに強く発信したいと考えています。

## 施設の設計コンセプト

当施設は、基本コンセプトを

「道の駅雨晴～とおくを想う～」

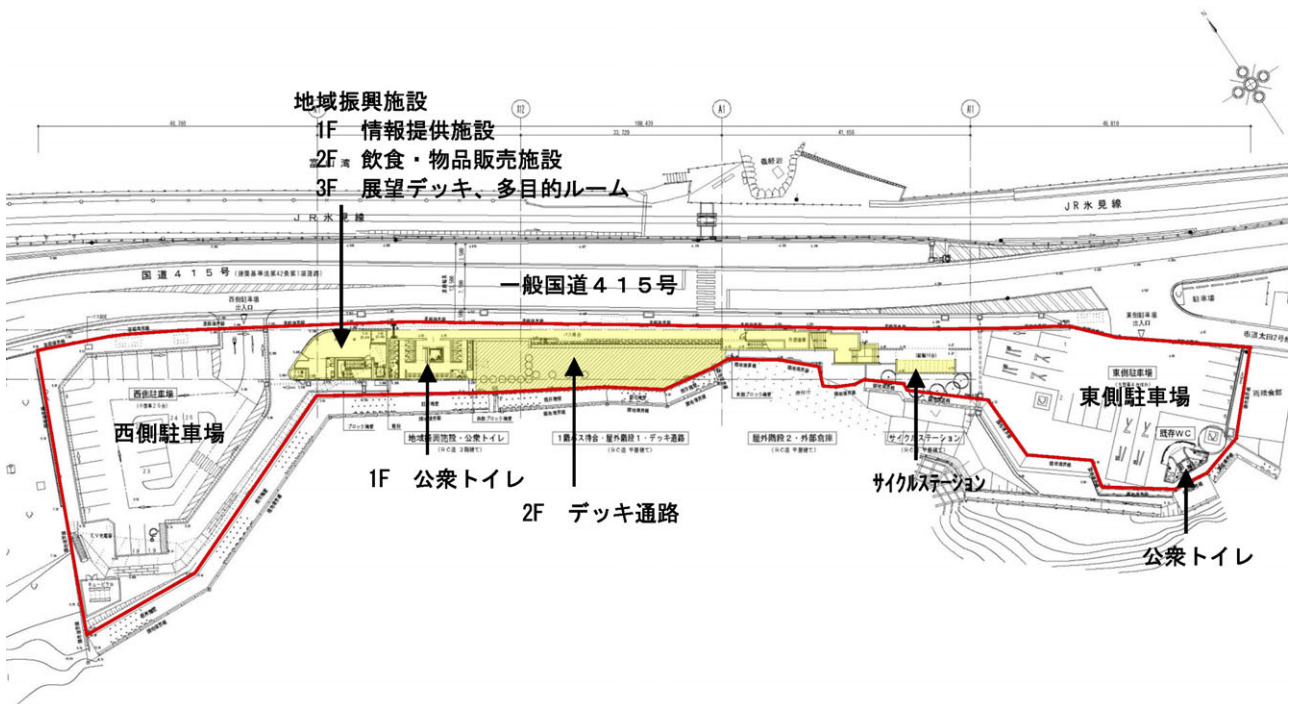
として、雨晴海岸の遙か遠景を楽しんでいただくことに加え、日々の喧騒から離れ、ゆったりとした時間を過ごすことができる施設としたいと考えています。（なお、「とおく」という言葉は、物理的な距離だけでなく、古代から中世、近世など、時代を超えた歴史や時間、目に見えないモノの背景などの意味を持たせています。）

また、設計にあたっては、基本コンセプトに基づき、何よりも大切なのは国名勝に指定されたこの景色であると考え、周辺景観に調和させながら、様々な風景を楽しむことができる場所となるよう配慮しています。具体的には、徐々に視点の高さを変化させながら雨晴海岸の眺望を楽しんでいただけるよう、建物の2階・3階に展望スペースを確保し、それらを緩やかな階段でつないでいます。

## 施設概要

- ・敷地面積：約 4,100 m<sup>2</sup>
- ・建築面積：約 440 m<sup>2</sup>（地域振興施設のみ）
- ・延床面積：約 1,000 m<sup>2</sup>（地域振興施設のみ）
- ・構造：RC 造、地上 3 階建
- ・施設内容：

施設名称	概要
情報提供施設（1階）	モニターやパンフレットによる、地域の観光、イベント情報、道路情報等の提供
飲食・物品販売施設（2階）	飲食サービス及び物品の販売
多目的ルーム（3階）	各種会議や企画展示等の開催（貸しスペース）
公衆トイレ	【1階】 ・男（小）6器、（大）5器 ・女9器 ・身障者用1器 【東側駐車場】 ・男（小）2器、（大）1器 ・女2器 ・身障者用1器
マーケットスペース （2階デッキ通路）	地場産品の即売やフリーマーケットの開催等（貸しスペース）
展望デッキ（3階）	
駐車場	【西側駐車場】 ・小型車 24台 身障者用 1台（EV 充電器スペース 1台） 【東側駐車場】 ・大型車 4台 小型車 10台
サイクルステーション	駐輪場及びメンテナンススペース



道の駅「雨晴」施設配置図

## 管理運営 ～より多くの方々に快適にご利用いただくために～

当施設は、民間のノウハウを活用し、利用者に提供するサービスや集客能力の向上、施設管理費の軽減を図るため、指定管理者による管理運営を行うこととし、複数の申請者の中から選定の上、昨年12月に指定管理者を指定したところです。

指定管理者の募集に当っては、①自動車利用者の休憩等のサービス提供に加え、県内有数の観光地である雨晴海岸の眺望を満喫できるサービスを提供すること ②太田地区の歴史・文化資産の紹介に加え、本市の見どころや観光情報を発信し、市内の観光地等へ誘導するゲートウェイ機能を果たすことを管理運営の基本方針として求めました。

指定管理者からは基本コンセプトに基づき、飲食については、雨晴の絶景を眺めながら、上質でおしゃれな空間で、ゆったりとした時間を過ごせるようなカフェスタイルを、また、物販については、地元铸物メーカー等と限定商品を開発すること等を提案されており、地域の魅力に加えて本市全体の魅力を発信する拠点施設として、本市のPRと活性化につなげていきたいと考えています。



高岡のクラフト商品

## 関連事業

現在、道の駅の整備にあわせて、富山県において、当施設前面の一般国道415号の拡幅整備と無電柱化（電線共同溝）が行われています。

一般国道415号は、石川県と富山県の物流や交流促進を深める重要な広域道路です。そのうち、当該区間は、交通量が多く、地元小学校の通学路にも指定されており、眺望の撮影などを目的とする観光客も多く訪れていますが、歩道がないため路肩部分に歩行者が滞留するなど危険な状態となっています。そこで、安全で円滑な交通を確保するため、車道幅員を拡幅し、新たに歩道の設置が行われているところです。

また、階層建ての地域振興施設から雨晴海岸を望む際、現在、国道に立地する電柱や架空線が景観を阻害することから、拡幅整備にあわせて電線共同溝方式による無電柱化も行われており、開放感あふれる雄大な景観をより満喫してもらうことができます。



一般国道415号の現状

なお、当該区間は、県が富山湾の美しい景色を楽しみながらサイクリングできる「富山湾岸サイクリングコース」にも設定されていることから、道路整備により、安全で快適な走行空間が提供されることにもなり、サイクリストが快適に走行できるよう、道の駅「雨晴」についても、空気入れや修理工具の無料貸出し等を行う「サイクルステーション」の認定を受けることとなっています。



## おわりに

全国の地方都市と同様に、本市では人口の減少が大きな問題となっています。また、リーマンショック以降の全国的な経済情勢の悪化などの影響を受け、市の基幹産業である金属製品製造業などの製造業が伸び悩んでいます。

道の駅「雨晴」は、道路利用者にとっての休憩施設としての役割だけを担うだけではありません。

近年、知名度が一層高まっている雨晴海岸を望む当地で、本市固有の地域資源を発信する拠点を整備し、雨晴海岸が有する知名度との相乗効果により、観光の振興のみならず観光関連産業や地場産業の活性化を図り、ひいては都市のブランド力の向上により、若者から高齢者まで幅広い年齢層の方々を惹きつけることができる魅力あるまちづくりにつなげたいと考えています。

加えて、地元の方々に日常的に利用いただける憩いの場として、末永く、愛される施設としたいと考えています。

平成30年4月25日、道の駅「雨晴」がオープンを迎えることになりました。

道の駅の整備が単なる「ハコモノ」作りで終わることなく、整備をきっかけに、地域住民や観光関連企業、地元企業などと一層交流・連携を深め、その整備効果を十分に発揮し、真の地方創生につなげてまいりたいと考えています。

「みんな、雨晴見にこんけ？待っとっちゃ！」

(注：みなさん、雨晴を見にいらっしゃいませんか？心よりお待ちしております！) ←富山弁です (^\_^)



道の駅「雨晴」の完成イメージ